揚口説

本調子



一、げにや都の春の空
出づる日影ものどかにて
咲くや桜に梅の花
色と匂に誘はれて
老も若きも諸共に
袖を引きつれ立ち出でて
花の色々籠に入れ
此処や彼処に行き巡り
長き春日の暮るるまで
帰る家路をうち忘れ
花をかざして舞ひ遊ぶ
春のけしきの面白や